

# きゅうしょくニュース

令和5年6月 池田松川学校給食センター

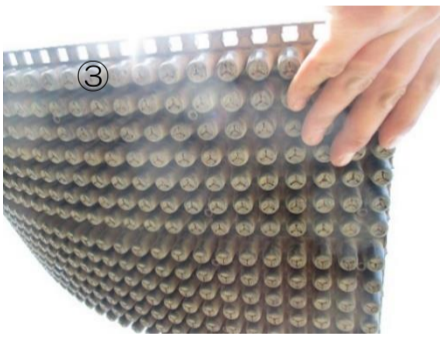
## た 田んぼをのぞいてみよう!

### ゆうきむのうやくまい 有機無農薬米

給食センターでは1ヶ月に1回有機無農薬米を使用します。普段のお米と違い農薬を使わず丈夫な稲を育てるための第一歩育苗の方法を聞いてきました。

3月末から種もみの準備をはじめます。

- ★野毛とり 種もみのまわりの毛をとる。
- ★塩水選別 塩水に種もみを入れ沈んだ物のみを使う。  
(比重選別)
- ★温湯消毒 60℃の湯に7分つける。  
(種もみの病原菌をやっつける。)
- ★催芽 15℃の水に1週間ほど浸して発芽を促す。  
種もみが透けた感じになってくる。  
25℃に温度を上げ、いっせいに芽を出させ  
種もみの芽が『鳩胸』状態になったものを種まきする。  
(25℃以上になると病原菌発生のおそれがある)



★苗を育てます。

- ① 苗ばこに土・種・土を入れる。
- ② 苗床の土の上に並べる(有機肥料を使って床土を用意しておく。)
- ③ 板を乗せしっかり抑える。土の栄養を吸い取らせる。  
(苗箱の裏面が栄養を吸収する形になっているので、  
苗床の土に密着させる)
- ④ 芽がでるまではシートをかぶせておきます。(保温と乾燥防止)

★15cm~18cmで葉が4.5~5.5枚になるまで育てます(約40日)  
有機無農薬米は田植え後に発芽してくる小ピエを抑えるため  
7cm以上の深い水で管理できる大きな苗を育てます。茎が太くなり、  
雨風に強い体格になり、大きなお米の粒になるそうです。

★苗を育てる間に田んぼの準備もします。

秋の稲刈り後は早めに稲わらを浅目にすき込み、春も早く2度目を土に攪拌してわらを腐食させ、メタンガス発生を防止して、健康に育つ土づくりをします。

(地球温暖化の防止にも一役かいます)

田んぼに水を張り1ヶ月置き水温が25~30℃になるよう水を温めます。

田植え前の雑草をわざと育て、しろかき(田んぼの土を砕き、土をやわらかくし、土の質を高める)を2回行い、雑草をやっつけます。この間に微生物が多く発生し水生昆虫もはぐくまれ、豊かな「命」の環境が整い、そうした中へ稲の苗をあげます。

1週目

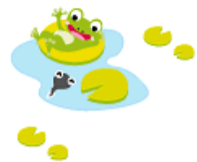
2週目

3週目





# 田んぼをのぞいてみよう!



## 有機無農薬米

給食センターでは1ヶ月に1回有機無農薬米を使用します。普段のお米と違い農薬を使わず丈夫な稲を育てるための第一歩育苗の方法を聞いてきました。



3月末から種もみの準備をはじめます。

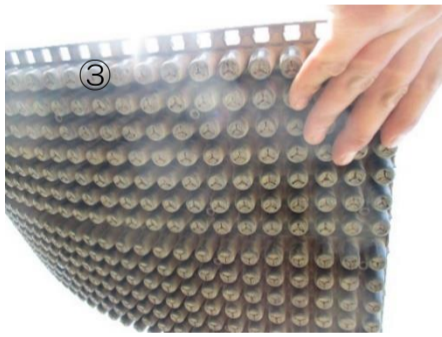
- ★野毛とり 種もみのまわりの毛をとる。
- ★塩水選別 塩水に種もみを入れ沈んだ物のみを使う。(比重選別)
- ★温湯消毒 60℃の湯に7分つける。(種もみの病原菌をやっつける。)
- ★催芽 15℃の水に1週間ほど浸して発芽を促す。種もみが透けた感じになってくる。25℃に温度を上げ、いっせいに芽を出させ種もみの芽が『鳩胸』状態になったものを種まきする。(25℃以上になると病原菌発生のおそれがある)



★苗を育てます。

- ①苗ばこに土・種・土を入れる。
- ②苗床の土の上に並べる(有機肥料を使って床土を用意しておく。)
- ③板を乗せしっかり抑える。土の栄養を吸い取らせる。(苗箱の裏面が栄養を吸収する形になっているので、苗床の土に密着させる)
- ④芽がでるまではシートをかぶせておきます。(保温と乾燥防止)

★15cm~18cmで葉が4.5~5.5枚になるまで育てます(約40日)  
有機無農薬米は田植え後に発芽してくる小ピエを抑えるため7cm以上の深い水で管理できる大きな苗を育てます。茎が太くなり、雨風に強い体格になり、大きなお米の粒になるそうです。



★苗を育てる間に田んぼの準備もします。

秋の稲刈り後は早めに稲わらを浅目にすき込み、春も早く2度目を土に攪拌してわらを腐食させ、メタンガス発生を防止して、健康に育つ土づくりをします。

(地球温暖化の防止にも一役かいます)

田んぼに水を張り1ヶ月置き水温が25~30℃になるよう水を温めます。

田植え前の雑草をわざと育て、しろかき(田んぼの土を砕き、土をやわらかくし、土の質を高める)を2回行い、雑草をやっつけます。この間に微生物が多く発生し水生昆虫もはぐくまれ、豊かな「命」の環境が整いそうした中へ稲の苗をあずけます。

1週目

2週目

3週目

